

2018年3月期 第1四半期決算 要旨
連結損益計算書（要約）

(億円)	2017年3月期		2018年3月期			
	第1四半期実績	通期実績	第1四半期実績	前年同期比	通期計画	前期比
売上高	706	3,669	1,072	+52%	3,800	+4%
営業利益	30	295	166	+453%	200	-32%
経常利益	29	285	162	+459%	160	-44%
税引前当期純利益	43	337	164	+281%	160	-53%
親会社株主に帰属する当期純利益	41	276	115	+180%	110	-60%
1株当たり配当(円)	-	40	-	-	40	-
1株当たり当期純利益(円)	17.54	117.79	49.22	-	46.93	-
1株当たり純資産(円)	1,215.03	1,313.06	1,353.20	-	-	-

<2018年3月期 第1四半期実績>
【売上高・利益/その他】

■売上高：1,072億円、営業利益：166億円、親会社株主に帰属する当期純利益：115億円

■主に遊技機事業において大型タイトルの販売があったことから、前年同期比で増収、増益

<今後の見通し>

■遊技機事業において上期に販売が集中

■遊技機事業において下期より各種規制等の変更が予定されており、市場環境等を慎重に見極めた上で、柔軟な対応が必要

各種費用等の実績

(億円)	2017年3月期		2018年3月期			
	第1四半期実績	通期実績	第1四半期実績	前年同期比	通期計画	前期比
研究開発費・コンテンツ制作費	139	671	153	+10%	710	+6%
設備投資額	61	270	50	-18%	244	-10%
減価償却費	39	163	42	+8%	166	+2%
広告宣伝費	31	148	32	+3%	205	+39%

連結貸借対照表（要約）

【資産の部】				【負債・純資産の部】			
科目	2017年3月期末	当第1四半期末	増減	科目	2017年3月期末	当第1四半期末	増減
流動資産	3,241	3,078	-163	流動負債	1,125	918	-207
固定資産	1,974	1,997	+23	固定負債	975	968	-7
				負債合計	2,101	1,887	-214
				純資産合計	3,114	3,188	+74
資産合計	5,215	5,076	-139	負債及び純資産合計	5,215	5,076	-139
				科目	2017年3月期末	当第1四半期末	増減
				自己資本比率	59.0%	62.5%	+3.5pt
				流動比率	287.9%	335.1%	+47.2pt

■総資産：139億円減少の**5,076億円**

■流動資産：売上債権やたな卸し資産の減少により、**163億円**減少

■流動負債：社債の償還や借入の返済等により、**207億円**減少

■自己資本比率：3.5ポイント上昇の**62.5%**

■流動比率：47.2ポイント上昇の**335.1%**（2017年3月期末 流動比率：287.9%）

遊技機事業

(億円)		2017年3月期		2018年3月期			
		第1四半期実績	通期実績	第1四半期実績	前年同期比	通期計画	前期比
売上高		212	1,482	549	+159%	1,500	+1%
内 訳	パチスロ	114	862	102	-11%	631	-27%
	パチンコ	63	483	411	+552%	716	+48%
	その他/消去等	35	137	36	-	153	-
営業利益		3	263	151	+4,933%	200	-24%
営業利益率		1.4%	17.7%	27.5%	+26.1pt	13.3%	-4.4pt
パチスロ販売台数(台)		29,902	215,736	25,440	-15%	158,000	-27%
パチンコ販売台数(台)		20,525	138,321	97,499	+375%	203,000	+47%

<2018年3月期 第1四半期実績>
【全体】

- パチンコにおいて主カタイトルの販売が好調に推移したことから、前年同期比で増収、増益

【パチスロ】

- 『パチスロ獣王 王者の覚醒』や『パチスロサクラ大戦 ～熱き血潮に～』等の販売を実施し、前年同期並みの販売台数を確保

【パチンコ】

- 主カタイトル『ぱちんこCR北斗の拳7 転生』の販売が好調に推移したことから、前年同期比で販売台数が増加

<今後の見通し>
【全体】

- 上期を中心とした販売スケジュール
- 風適法施行規則等の改正規則が2018年2月1日に施行予定

【パチスロ】

- 主カタイトル『北斗の拳』シリーズの新作『パチスロ北斗の拳 新伝説創造』等の販売を実施
- 2017年10月1日以降の新台設置から新たな自主規制の適用

【パチンコ】

- 人気アニメ『攻殻機動隊S.A.C.』をモチーフにした『ぱちんこCR攻殻機動隊S.A.C.』等の販売を実施

エンタテインメントコンテンツ事業

(億円)	2017年3月期		2018年3月期			
	第1四半期実績	通期実績	第1四半期実績	前年同期比	通期計画	前期比
売上高	467	2,057	502	+7%	2,200	+7%
内訳						
デジタルゲーム	120	473	95	-21%	590	+25%
パッケージゲーム	107	471	144	+35%	515	+9%
AM機器	103	494	104	+1%	435	-12%
AM施設	88	372	90	+2%	380	+2%
映像・玩具	42	227	51	+21%	245	+8%
その他/消去等	7	20	18	-	35	-
営業利益	49	111	37	-24%	100	-10%
内訳						
デジタルゲーム	24	49	12	-50%	73	+49%
パッケージゲーム	24	26	13	-46%	32	+23%
AM機器	-1	17	5	-	-4	-
AM施設	6	22	4	-33%	17	-23%
映像・玩具	-1	12	1	-	15	+25%
その他/消去等	-3	-15	2	-	-33	-
営業利益率	10.5%	5.4%	7.4%	-3.1pt	4.5%	-0.9pt
パッケージ販売本数 (万本)	241	1,028	456	+89%	1,160	+13%
国内AM施設店舗数	193	191	190	-	190	-
国内AM施設既存店売上高前年比	111.2%	108.5%	100.1%	-11.1pt	101.3%	-7.2pt

< 2018年3月期 第1四半期実績 >

【全体】

- パッケージゲーム分野において、『ペルソナ5』の海外販売が堅調に推移したことや、大型タイトルの販売が集中したことから増収
- パッケージゲーム分野において大型タイトルの投入に伴う開発費等が発生したため減益

【デジタルゲーム】

- 配信タイトル数：27本⇒25本
- 配信から5周年を迎えた『ファンタジースターオンライン2』が堅調に推移
- 『オルタンシア・サーガ-蒼の騎士団-』、『ぶよぶよ!!クエスト』等の既存主カタイトルを中心に、各種イベントやアップデート等を実施

【パッケージゲーム】

- アトラスにおいて、『ペルソナ5』の海外販売が好調に推移（全世界での累計出荷数が180万本を突破）
- PCゲームの新作タイトル『Warhammer 40,000: Dawn of War III』、『Endless Space 2』を発売

【AM機器】

- 『艦これアーケード』等のレベニューシェアモデルによる配分収益を計上
- 『UFOキャッチャー9』や『UFO CATCHER TRIPLE』の販売が堅調に推移
- カジノ機器開発や販売に向けた先行費用等が発生

【AM施設】

- 国内AM施設既存店売上高前年比**100.1%**
- プライズ等により施設運営強化を実施したものの、好調だった前年同期に比べ、ビデオゲームの稼働が減少
- 『SEGA VR AREA AKIHABARA』、『セガコラボカフェ』等の新業態店舗を展開

【映像・玩具】

- 劇場版『名探偵コナン から紅の恋歌 (ラブレター) 』がシリーズ過去最高の興行収入を突破
- 劇場版『名探偵コナン』のビデオ配分等の収入を計上
- 『アンパンマン くみたてDIY はしるぞっ! ねじねじアンパンマンごう』等の定番・主力製品を販売

エンタテインメントコンテンツ事業**<今後の見通し>****【全体】**

- デジタルゲーム分野において、引き続き既存タイトルのアップデートやイベント等を行うほか、下期に新作タイトルの投入を予定

【デジタルゲーム】

- 『ファンタシースターオンライン2』において、大型アップデートとなるEPISODE 5の配信を開始(7/26)
- 下期より新作タイトルの投入を予定

【パッケージゲーム】

- 新作タイトルの投入を予定
 - 『ソニックマニア』(8月)
 - 『世界樹と不思議のダンジョン2』(8月)
 - 『Total War: WARHAMMER 2』(9月)
 - 『真・女神転生 DEEP STRANGE JOURNEY』(10月)

【AM機器】

- 『艦これアーケード』を中心にレベニューシェアモデルによる収益貢献を見込む
- 『StarHorse3』シリーズのCVTキット『StarHorse3 SeasonVI FULL THROTTLE』の販売を実施
- カジノ機器開発や販売に向けた先行費用等が発生

【AM施設】

- 引き続きプライズを中心とした施設オペレーションの強化に取り組む
- 既存のゲームセンター業態における、電子マネーの導入を予定
- コラボカフェ等の新業態店舗に向けた取り組みを強化

【映像・玩具】

- 劇場版『名探偵コナン から紅の恋歌 (ラブレター) 』や『それいけ! アンパンマン ブルブルの宝探し大冒険! 』等の映画配給収入を見込む
- 『アンパンマン』シリーズや『ディズニー』シリーズ等の定番・主力製品を中心に展開予定

リゾート事業

(億円)	2017年3月期		2018年3月期			
	第1四半期実績	通期実績	第1四半期実績	前年同期比	通期計画	前期比
売上高	26	130	20	-23%	100	-23%
営業利益	-8	-22	-7	-	-30	-

<フェニックス・リゾート>

売上高	14	84	18	+29%	100	+19%
営業利益	-5	-8	-3	-	0	-
施設利用者人数(千人)	99	561	126	+27%	651	+16%
宿泊3施設	44	293	57	+30%	332	+13%
ゴルフ2施設	20	87	25	+25%	100	+15%
その他施設	35	181	44	+26%	218	+20%

<パラダイスセガサミー>

売上高(10億KRW)	21	95	22	+5%	-	-
営業利益(10億KRW)	15	-0	-12	-	-	-
利用者数(千人)	11	57	17	+55%	-	-

※「パラダイスセガサミー」は当社持分法適用関連会社

※「パラダイスセガサミー」の数値は3ヶ月遅れで計上

<2018年3月期 第1四半期実績>

- 『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、大規模リニューアルの効果及び隣県向け宿泊プランの実施等により、震災の影響のあった前年同期よりも宿泊者数が増加
- 韓国初のIR(統合型リゾート)施設『パラダイスシティ』開業
- 屋内型テーマパーク(ジョイポリス)を運営する子会社の一部株式を売却したことから減収

<今後の見通し>

- 『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、ガーデンエリアのリニューアル及び夏休み施策としてシーガイアならではの様々な企画やプログラムを実施予定
- IR(統合型リゾート)事業における先行投資等を計画

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。